

会 議 等 経 過 報 告 書

1. 件 名	令和6年度第1回大船渡市立図書館協議会
2. 日 時	令和6年7月18日（木） 午後1時45分～午後3時50分
3. 場 所	大船渡市民文化会館（1階会議室）
4. 出 席 者	委 員 ： 藤村敏夫会長、金野晋副会長、金野洋子委員、佐々木加代子委員、 佐々木規子委員、白木澤京子委員、村上泰子委員 図書館 ： （市）山岸部長、平野館長、遠藤館長補佐、菅野係長 （指定管理者）原田総括責任者、中井業務責任者、小野寺副業務責任者
会 議 等 の 内 容 （要 旨）	
1 開会（進行：遠藤館長補佐） 委員出席状況の確認。出席7名、欠席1名。 2 委員紹介（平野館長） 3 会長及び副会長の選任について 委員互選により、次のとおり決定。 会長 ： 藤村委員 副会長：金野晋委員 4 会長あいさつ（藤村会長） 5 部長あいさつ（山岸部長）並びに職員紹介（平野館長） 6 議事（進行：藤村会長） 報告第1号 令和5年度図書館事業の実施状況及び利用状況について（菅野係長、原田総括責任者説明） ■（白木澤委員） 蔵書点検の不明資料はどうなるのか。また、不明本の対策はどうなっているか。 （中井業務責任者） 資料中の約1,500件については、登録データに誤りがあるだけで所蔵が確認できたもの。蔵書点検で5回不明となったものについては、市と相談し除籍処理としている。ＩＣタグの導入により、かなり管理しやすくなった。ＩＣゲートが持ち出しや貸出処理漏れ防止となっていることに加え、日頃のデータ管理、書架整理を行うことにより、不明本を解決していきたいと考えている。 （佐々木規子委員） 不明本の中には、震災により返却されなかったものも含まれているか。 （中井業務責任者） 指定管理開始以前の話になるが、震災のために返却できなくなった資料については、市の判断で除籍したと聞いている。 （金野委員） 市立図書館の本が学校図書館等に返却される場面もある。点検を年1回行い、不明本も処理した方が良い。	

(平野館長)

不明本の多くはＩＣタグを導入する以前のものと思われる。今後、できるだけゼロに近づけるよう取り組んでいきたい。

■ **(金野副会長)**

利用登録者は増加しているが、昨年度との月別の貸出状況のグラフを見ると下回っている月が多いようである。どのように評価しているか。

(原田総括責任者)

コロナの影響かどうかはわからないが、当館に限らず他館においても、貸出者数・冊数が逡減している状況が見られると聞いている。一方で、図書館内で本を読んだり、勉強したりという方を含む入館者数については月別を比較すると増えている。貸出のみの指標では利用状況を判断できなくなっており、今後考えていかなければいけない。

■ **(佐々木加代子委員)**

移動図書館車の巡回サービスで、困っていることはないか。

(中井業務責任者)

コミュニティが変わっていく中で、どういう所に需要があるかの情報収集が難しくなっていると感じている。震災後は、公営住宅や仮設住宅などコミュニティがまとまっているところへの巡回を追加していたようだが、10数年経過し、新しいコミュニティが形成されていく中で、図書館に足を運べない方へどのようにサービスを届けたらよいか、悩むところである。

なお、空調工事に伴う休館の間に、移動図書館車に車を1台追走させ、本を増加させる取り組みを行った。その影響かは分からないが、年間の移動図書館車の個人利用者数が増えている。

これからも利用者の状況を鑑みながら、反映させていきたい。

(藤村会長)

場所ごとの人数は把握しているか。

(中井業務責任者)

把握している。毎年、それら状況を踏まえて、人が集まりやすい場所を探りながら、場所の検討、見直しを行っている。

(白木澤委員)

追走して冊数を増加させたことは、すごく良かった。臨時的な対応だったと思うが、今後、もしか号の推進キャンペーンとして、また行うことはできないか。

(中井業務責任者)

昨年度は工事休館のために、本館の人員を振り向けることで対応できた背景がある。今後、移動図書館車を使った新しい試みができないか検討していきたい。

(藤村会長)

大船渡町であれば、キャッセンのイベントに併せて移動図書館車を出すとか、貸出冊数を増やすとか、やり方はいろいろあると思う。利用者は自分のところに来てほしいと思っているだろうから、うまく進めてほしい。

■ **(佐々木規子委員)**

いろいろな読書推進事業のイベントや企画が実施され、東海新報を見て参加したいと思うものが多くあった。子供にとっては、「図書館」となると行きづらくても、イベント等で窓口が広がっていると、本を手取るきっかけ、図書館を知る機会となる。大変だろうと思うが、頑張ってアイデアを出してほしい。

(中井業務責任者)

イベントについては、きっかけづくりになれば良いという観点で、切り口や年代を毎年検討している。特に、昨年は工事休館があったこともあり、休館明けに如何に図書館を思い出してもらうかが大きな課題ととらえていた。イベントによる情報発信とともに、図書館に足を向けてもらうきっかけになれば行ったもの。

■ **(村上委員)**

人材育成がいろんな方面で課題となっているので聞くが、研修会の講師として図書館のスタッフを派遣しているようだが、手ごたえはどうか。

(中井業務責任者)

学校図書館への支援の一環として行っている。地域活動支援ボランティアの研修会に招いていただき、その時々の実際の課題について、一緒に考えて解決していこうという場になっている。

(金野委員)

大船渡市の学校図書館ボランティアは10数名、末崎小学校以外の小学校に1～3名入っている。教員から指導を受けるという機会もないことから、個々が暗中模索で行っている状況。図書館は学校によって配置や環境が違うことから、年によって学校を変え、本の並べ方や飾り方について意見交換し、内々だけでは話が詰まるので、司書に来ていただいて様々な運営の仕方を聞いており、とても参考になっている。

(平野館長)

金野委員をはじめボランティアの方々には、学校図書館に愛情をもって活動いただいている。また、知識を吸収したいという意欲もお持ちで、研修で学んだ図書の修繕、展示の仕方などを学校図書館に取り入れていただいている。

(藤村会長)

学校の教員は、必ずしも図書館の勉強をしてきているわけではないので、展示方法や不明本の対応などわからないことがあるため、市立図書館の司書に助けていただいている状況があり、市立図書館の役目の一つになっている。

(金野副会長)

学校図書館協議会の研修に中井業務責任者に講師として来てもらった。、各学校に司書教諭を1名ずつ置くことが本来だが、必ずしも司書教諭が学校の図書館担当になっている状況にはないため、そういった機会を利用して、本の買い方や展示の仕方など、様々なことを学ぶ機会としたい。

■ **(白木澤委員)**

リサイクル本の譲渡会で小学校へ本を渡したということだが、渡した後の小学校の様子をお聞きたい。

(金野委員)

昨年末、長期休業前に学校にだけ連絡があった。ある学校の教員から、ボランティアも一緒に行ってほしいと連絡があり対応をした。4、5校分として300冊くらいを選び、振り分けを行った。

ボランティアの方が各学校で欲しい本や足りない本を把握しているので、譲渡会に行くようにした方が良いと思う。

(中井業務責任者)

学校への案内には、ボランティアへの声かけも記載していたが、連絡しないところもあったようだ。金野委員から各校のボランティアへ声がけいただいたことで、市内の学校に本が行き渡った。

(金野委員)

学校によっては、教員が行かなければならないと思ったところがあったようだ。ボランティアとコミュニケーションをとって、どちらが行くか相談したほうが良かった。

■（金野委員）

中高生が勉強に利用していることは、うれしいと感じる。開館時間を夜にスライドさせることはできないかと思ったり、一方で、職員の時間外労働や予算の問題もあるかと思ったり、中高生へのフォローを行うことで、図書館に親しみを持ってもらえるのではと思ったりもする。

利用状況を見てどう感じているか。

（中井業務責任者）

昨年度から、中高生の利用が増えてきている。コロナ禍明けの影響もあるかと思うが、土日の利用が多い。

今年度からは、市民文化会館の取り組みとして、レストランススペースをフリースペースとして開放している。そこと図書館を行き来して利用している様子も見られるので、情報共有しながら互いに利用者を招き入れたいと考えている。

（平野館長）

今年から市民文化会館についても指定管理者制度を導入した。その中で指定管理者より休止中のレストランススペースの活用として、交流スペースとして提案があり、夜9時まで開放している。図書館閉館後も利用できるのも、周知していきたい。

（藤村会長）

本の貸し出しだけではなく、人が来て何かする、本を読むなど、人の流れを作ることも大事なのかと思う。

■（佐々木規子委員）

前回も話をしたが、新刊本の帯を付けてもらえると助かる。

（中井業務責任者）

帯の活用方法については、検討中である。要望の声は多い。直接貼り付ける、新刊コーナーに掲示するなどの方法があるが、どういう形が良いか考えている。1つ工程が増えることで、展示が遅れてしまうこともあり、お客様の利便性について検討している。前向きに検討したい。

■（藤村会長）

設備については、椅子の防音対策を行ったとの話があったが、アンケートには構造上、対応できないものもある。行ったものはわかりやすくPRしてほしい。

（平野館長）

前回の協議会で話のあったクッションについては、分かりやすい場所に移動した。

（藤村会長）

全国の図書館を回りながら旅をしている方が、大船渡市立図書館が立派だと書いているものもあった。使いにくいとか、迷路みたいだという声もあるが、それを逆に生かすしかない。なんとか楽しくなるような図書館を作っていけば良いかと思う。

イベントについても、幅広い年代層に向けていろんなものを組んでもらっている。子供たちも楽しんでいる部分もあるので、また今年も頑張してほしい。

協議第1号 令和6年度図書館事業計画（案）について （指定管理者 原田総括責任者説明）

■（白木澤委員）

先日、バリアフリーサービスの取り組みについての追加資料の作成をお願いし、今日、配布してもらった。経緯としては、前回の会議で車いすの方の話があり、さらに2019年6月に読書バリアフリー法が成立したことを何かで見て、気になっていたことから、図書館ではどうなっているかを確認したく、お願いしたもの。

追加資料の項目については、サービス計画にも載ってくれば良いかと思う。また、広報計画の中にもバリアフリーについて、FMねまらいんなどの広報媒体の中でお知らせするということができるか

と思う。イベントの中で拡大鏡を使わせてみたり、大活字本を展示したりという方法でもお知らせできるのではないかな。

先日、後天的に視覚障がい者となった方から、どのように市立図書館を利用しているかを伺ったので、お伝えする。

- ・まだ見えているときに図書館を利用したことがあり、視覚障がい者向けの図書や資料がないか問い合わせたが、ないとの回答だったようだ。
- ・その後は、県立視聴覚障がい者情報センターにリクエストして、本を読み上げたCDを送ってもらい、聞いている。(音声デジタイズ図書の利用)
- ・市立図書館で図書資料を揃えるのは難しいと思うので、受付職員が県立視聴覚障がい者情報センターを知っていることと、話しかけやすい環境づくりをお願いしたい。
- ・構造的に坂があるとか、わかりにくい場所があることをお知らせすることも大事だと思う。

(藤村会長)

バリアフリーや子供に関する情報を、機会を捉えてどんどん出してほしい。子供連れの方が来やすいように、声を出して良い場所を設けるなどしてはどうか。

(金野副会長)

私が普段、読書するときは電子書籍を利用している。本も買うが、電子書籍がある場合は電子書籍にしている。字の大きさを拡大することもでき見やすい。オーディオブックも買って車で聞いたりもする。

バリアフリーのサービスとしても、Kindleの端末を整備して探さなくても画面で見られる、オーディオブックを整備して聞けることができるという仕組みを作るということも、利用者増加に繋がるのではないかな。

機材の準備や、どのような使い方をするかを検討という課題はあるが、そういう形も将来的に検討していただければよいかなと思う。

(平野館長)

今年、県内の図書館長の会議に出席した際に、電子書籍・電子図書館について話題になった。現時点においては、書籍1冊の価格設定が2倍以上となっており、期間の制限などもあるようだ。また、人口規模10万人程度を想定しているため、大船渡市立図書館単独ではハードルが高い状況にある。

今後、技術革新等でバリアフリーのメニューも増えてくるかと思うが、最小の経費で多くの方が利用できるような体制については、引き続き情報収集していきたい。

白木澤委員からの話も参考にしながら、視覚障がいの方にどういったサービスが提供できるのかについても情報収集していきたい。

協議第2号 令和6年度図書館資料購入計画(案)について (指定管理者 原田総括責任者説明)

■(金野委員)

学校図書館ボランティアとしてのお願いになるが、授業で使う本については、学校で1セット準備するが、できれば2、3セットを子供たちに見せながら授業を進めたい場面がある。学校には購入する余力はないため、国語の参考図書を図書館で揃えることはできないか。各学校で時期が重なることもあるとは思いますが、何校か分でも役に立つと思われる。

(中井業務責任者)

教科書に掲載されているものについては、学校図書館協議会で教員の方々にも説明したが、小学校の教科書改訂に合わせ、手に入るものについてはすべて購入する予定としている。

また、年度当初に各学校へ調べ学習の仕方について案内を行っており、学習单元でも図書館を利用してほしい旨を伝えている。

教科書掲載の図書以外にも準備できる本が多くあるので、できるだけ学校のサポートも行っていきたいと考えている。

■（金野委員）

最近、読書感想文を書いている学校が少ない。各コンクールの課題図書も夏休み前に入れるようにしてほしい。また、発信もしてほしい。

（中井業務責任者）

毎年、全国と岩手県の読書感想文コンクールの課題図書は購入しており、児童生徒に配布する図書館だよりで発信している。

また、期間中に多くの子供の手に届くように貸出しの対象年齢を制限したりもしている。

（藤村会長）

何セット準備しているか

（中井業務責任者）

全国の課題図書は2セット、岩手県の課題図書は1セット準備している。

郷土に関するものについては、岩手県課題図書でも複数購入する場合もある。

（藤村会長）

昔は各学校で参考図書のリストを作っていた。学校と図書館にある本をリスト化しておくとしりやすい。そういう取組みも学校支援になるのではないかな。

学校でも図書館にお願いしたい事項がいろいろあるので、話を聞いて、できるところから対応をお願いしたい。

7 その他

大船渡市立図書館指定管理者募集について （平野館長説明：指定管理者退席）

8 閉 会（午後3時50分）